

## 一日のはじまり

校長 安養 貢

令和6年は、思いもよらぬはじまりとなりました。能登半島を震源に発生した地震に、わたしたちも大きな衝撃を与えられました。翌日、校舎や敷地内を確認したところ、棚のものが落ちていたり、ガラス容器が割れていたりしていましたが、大きな被害はありませんでした。もうすぐ築38年の校舎ではありますが、よく耐えてくれました。生徒や教職員も無事で、予定通りに3学期の始業式を迎えることができました。未だに困難な生活を送っておられる方、被害が大きく思うように活動できていない児童・生徒・学校が少しでも早く日常を取り戻せるよう願っています。

さて、4月に着任して以来、続けていることがあります。それは、朝登校してくる生徒たちに、玄関前で「おはようございます」と声をかけることです。わたしの一日はここからはじまります。

生徒の顔と名前を少しでも早く覚えたいという思いもあってはじめましたが、出張等で学校にいないとき以外は、毎日こちらから声をかけ続けました。生徒の反応は様々で、元気にあいさつをしてくれる生徒、小さな声で何とか返してくれる生徒、声は出さないけれど頭をぺこりと下げてくれる生徒、ちらっとこちらを見るだけの生徒、まったく反応がない生徒、といろいろです。そんな反応の微妙な違いをみながら、「今日も元気だな」「ちょっと機嫌が悪いのかな」「何か悩んでいるのかな」など、気かけながら朝の時間を過ごしています。

中には、服装等が整っていない生徒もいます。ひと昔前の自分だったら、その場で、しばらくお説教をしていたかもしれません。しかし、今はその場でそういった話はしていません。もしかしたら、寝坊して慌ててきたのかもしれませんが。苦手な授業があって気が重いのに来たのかもしれませんが。そんな日でも頑張って登校してきたのに朝から玄関前でいろいろ注意されては、ますます嫌な一日になってしまうかもしれません。校長という立場になって思うのは、「今日もよく来てくれたね」という思いです。当たり前のことなのかもしれませんが、来てくれただけで、まずは「マル」。今日という一日で、いろいろな経験をしてもらいたいと思って迎えています。

続けていると、生徒もだんだん反応してくれるようになりました。反応が無かった生徒も、ちょっと気にかけてくれたり、ぼそっと返してくれたり…。日によってまちまちの生徒もいますが、そんなこと大人にだってあります。微妙な反応の違いですが、妙に嬉しかったりすることもあります。「こちらから声をかけること」「子供からの反応を待ち続けること」に意味があると思っています。

そうこうしながら約1年、もう2月になりました。しかし、困ったことに、未だに顔と名前はうろ覚えです。あっという間に通り抜けていってしまう生徒、コートやカバンで名札が隠れている生徒、さらに困ったことに、マスクで顔が半分隠れてしまっているときもあります。マスクのあるなしで、一瞬、誰かわからない場合もまだまだあります。城端の冬の寒さはまだまだ堪えますが、今朝も玄関から一日をはじめています。